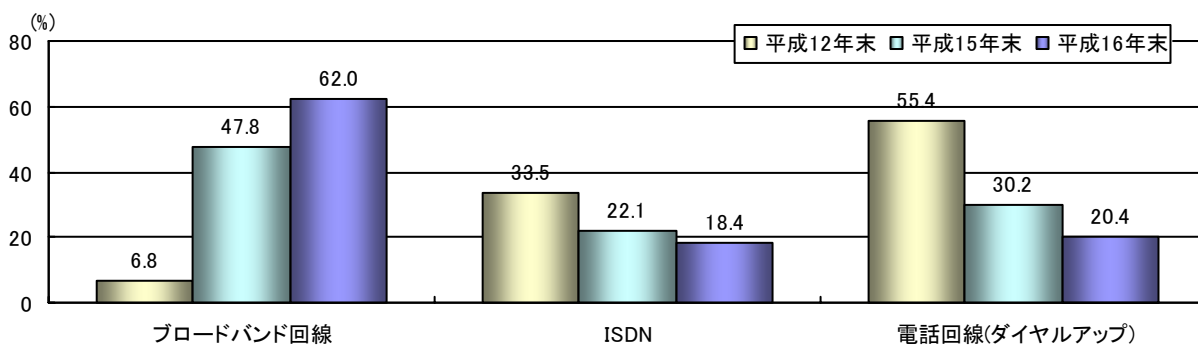


## 第2章 ブロードバンドの利用動向

### 2.1 社会経済活動の基盤としてのブロードバンド基盤

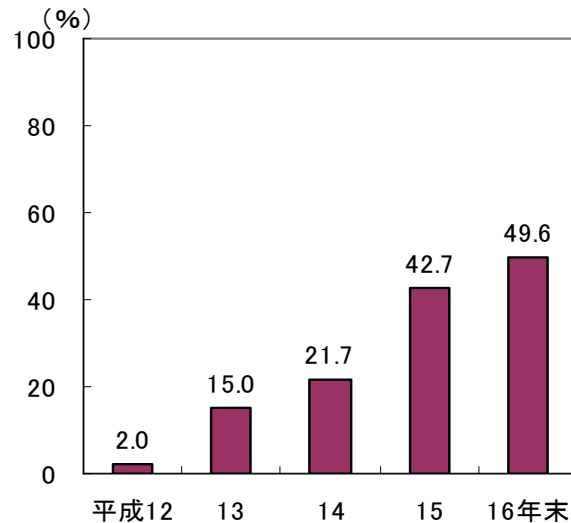
- ① ブロードバンド基盤は、既に必要不可欠な社会インフラの一つとして認識されつつあり、ブロードバンドの特性を利用して、個人、企業、公的機関等の利用者は、事業者の定額制サービスを利用し、写真や動画像等の大容量データによる情報のやり取りを、グローバルに展開するインターネット等を通じ、距離や時間等による利用料金を気にすることなく、自由かつ円滑に行うことが出来る。
- ② 大容量データの受発信が必要となる高度なアプリケーションの利用が可能となることで、産業分野においては、企業の経営効率、生産性の飛躍的な向上等、日常生活の分野においては、生活の利便性、豊かさの向上等に大きな役割を果たしており、家庭・企業双方においてブロードバンドの導入が進んでいる。
- ③ また、図表2.3にあるように、ブロードバンド利用者はナローバンド利用者に比べ、多様な用途にインターネットを利用している（全ての利用割合が高い）。特に「動画・音楽のダウンロード・視聴」「オークション」「ネットゲーム」等、高速性や常時接続性が必要な分野ではナローバンド回線との違いが顕著である。
- ④ それ以外の面でも、Web上のコンテンツや電子メールの情報量の増加、OS、ウイルス対策ソフト等のソフトウェアを最新化・最適化するプログラムは通常オンラインで配布されていること等、日常のインターネット利用においてブロードバンドがある程度前提となっている。

図表2.1： 自宅におけるパソコンからのインターネットの接続方法



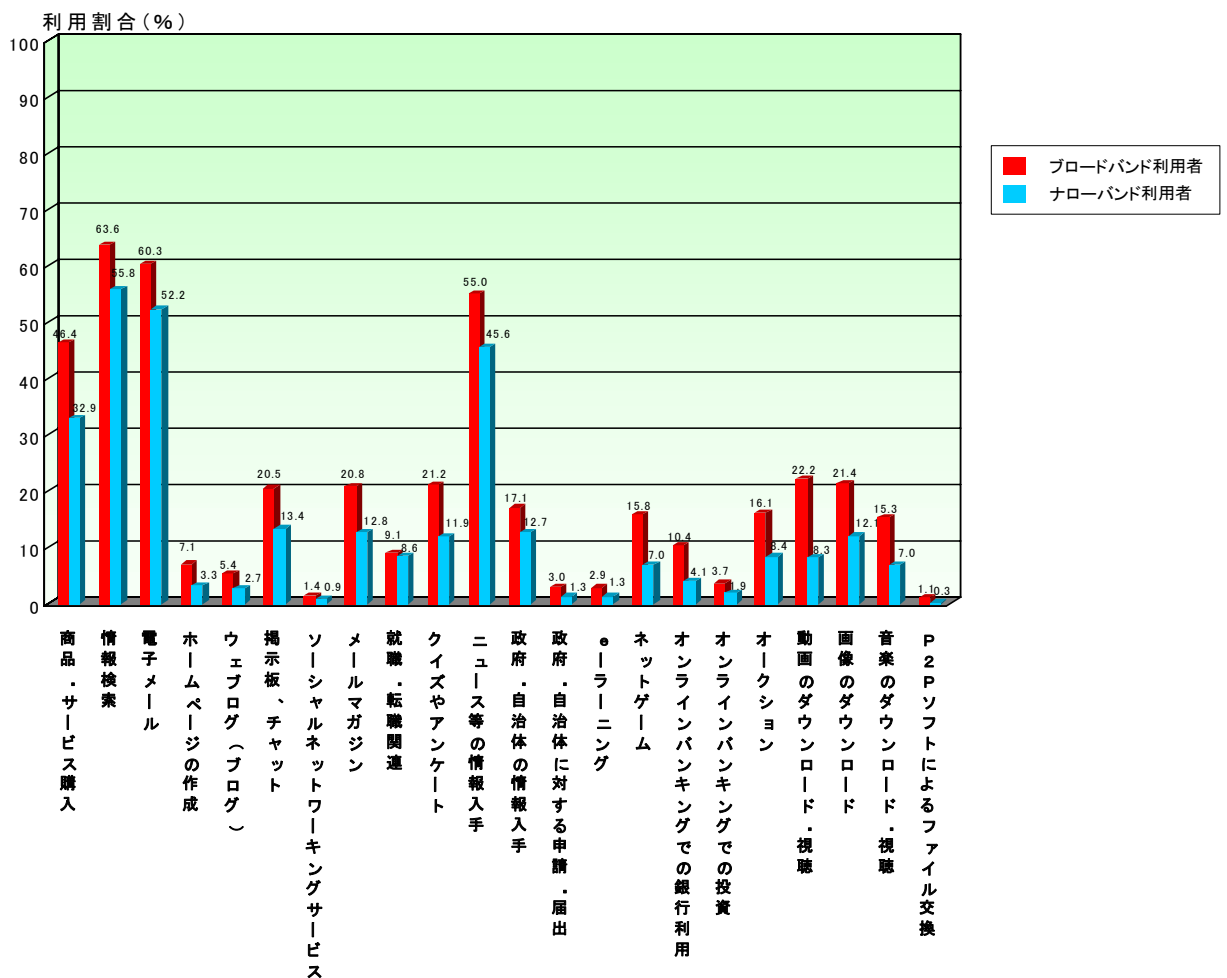
出典：総務省「通信利用動向調査」

図表2. 2: 事業所におけるブロードバンド普及率



出典：総務省「通信利用動向調査」

図表2. 3: ブロードバンド利用者とナローバンド利用者のインターネット利用

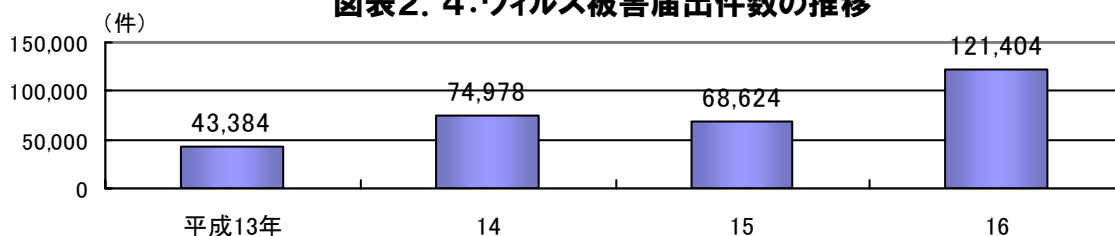


出典：総務省「通信利用動向調査」

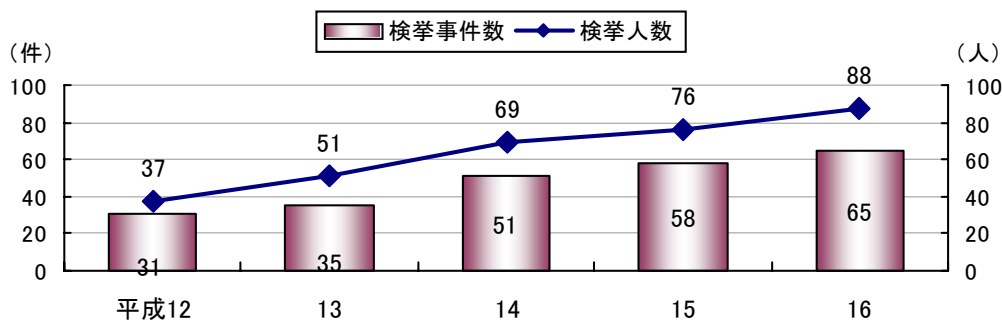
## 2.2 品質・セキュリティの向上と災害・障害に強いインフラに対するニーズの拡大

- ① ブロードバンドが急速に普及し、日常生活やビジネスを支える社会インフラとしてのブロードバンド基盤の重要性が増していく一方、ウィルス、不正アクセス行為、迷惑メール等による被害の増加が懸念され、品質・セキュリティの向上が大きな課題となっている。
- ② また、昨年相次いで起こった新潟県中越地震等の自然災害時は、音声通話輻そう時の安否確認手段として電子メール、インターネット上の災害用伝言板等のデータ通信が有効であった<sup>17</sup>。災害時の重要通信の確保という観点から、ネットワーク障害や自然災害に強い、ユーザーが安全・安心に利用できるインフラに対するニーズが高まっている。
- ② また、最近では、「トリプルプレー」に代表されるように通常のインターネット接続サービスに映像配信、IP電話を重畳したブロードバンド・サービスが普及してきており、IP電話サービスの中には緊急通報機能を備えたものも登場している。高いリアルタイム性の確保という観点から、インターネット接続サービスのみ利用されるブロードバンド基盤よりも信頼性の高い基盤の整備が求められている。

図表2. 4: ウィルス被害届出件数の推移



図表2. 5: 不正アクセス禁止法違反事件の検挙状況



<sup>17</sup> NTT ドコモでは2004年4月から、音声・パケットについて独立の通信規制を行える機能を導入している。